

第4回 (仮称) 宮っ子の誓い制定懇談会 (議事録)

■ 日 時 平成19年12月4日(火) 午後3時～4時

■ 会 場 教育委員室

■ 出席者

懇談会委員：鎌倉委員，小島委員，大塚委員，佐々木(英)委員，古川委員，松本委員，古澤委員，渡邊委員，板井委員，佐々木(徳)委員

事務局：教育長，教育次長，教育次長(学校担当)，教育企画課長，教育企画課総務担当主幹，学校管理課長，学校教育課長，学校健康課長，文化課長，スポーツ振興課長，教育センター所長，教育企画課長補佐，教育企画課企画係長，生涯学習課総括主査，事務局職員

■ 傍聴者 なし

■ 会議経過

1 開会

2 報告事項

(1) 第3回会議の議事録について

3 議題

(1) パブリックコメントの結果について

(2) アンケート調査の結果について

(3) 提言書(案)について

4 提言

〈委員からの主な意見・質問等(要旨)〉

小島委員：パブリックコメントや小中学校のアンケートの結果を見て，安心して
いる。どんないいものであっても，誓うのは子どもであるので，支持
が得られたことはいいと思う。

佐々木委員：「北関東の真ん中で」と「北関東の真ん中に」では，どのように違う
のか。

小島委員：「真ん中で」というのは定点観測のような他人事のような印象をうけ
る。「真ん中に」とすることにより主体的・永久的な感じになる。

佐々木(徳)：「弱い人をいたわる」は，お互いを助け合うことでもある。思いやり
の心が「弱い人をいたわる」につながる。

鎌倉会長：児童生徒へのアンケートを見ても，「よわい人をいたわる」という表
現が良いという意見もあった。

松本委員：北関東リードする中心的役割という解説文は，他の北関東の都市に配
慮する必要はないのか。

- 鎌倉会長 : 他都市と比べて優れているということではなく、リードしていくという自負を持っており、誇りを持っているということではないか。
- 板井委員 : 短期間の間にこれだけのものができあがったので、素晴らしい。できたものをPRして、市民みんなでよりよいものにしてほしい。
- 佐々木(徳)委員 : 前回の「宮っ子の誓い」に込めた内容と今回示されたものを読み比べてみると、今回の解説がいい。前回の懇談会では「よわい人」が議論となったが、「人はみな強さや弱さを持ちながら、精一杯生きています」という説明となり、分かりやすくなった。この説明があれば理解できると思う。
- 古沢委員 : 「宮っ子の誓い」の言葉が難しいといっても、唱和などをするうちにだんだんこなれてくる物である。内容を見ると、身近なものであり、バランスよくできていると思う。また、アンケートの結果を見ると、子どもは、大変素直に受け取っていると思う。今後、これを徹底することが大切である。宇都宮の子どもたちの心に染み込ませていってほしい。
- 古川委員 : パブリックコメントが4件であったのは、残念であるが、「よわい人」については、「人のよわさ」をどのように捉えるか考えることにつながり、いい表現だと思う。今後、これを浸透させていくことが大切である。
- 大塚委員 : 私もパブリックコメントが少なかったのは残念に感じている。年齢をみると、40代、60代の意見である。若い人からの意見があれば「よわい人」についての意見があったように思う。
また、誓いに込めた願いの中で「精一杯生きています」というのがいいと思った。この内容を宇都宮の子どもはみんな知っているように周知していく必要がある。
- 渡邊委員 : パブリックコメントが少ないのは、あまり問題ではないと思う。それよりも、子どもが「宮っ子の誓い」を唱和するのであるから、80～90%の子どもから支持されていることが素晴らしいと思う。唱和をするということで、いろいろなところで活用することが大切である。大人も一緒に活用していくというのが、この誓いの大きなポイントである。
- 佐々木委員 : 全国津々浦々までこの言葉が流れていくことを期待している。宇都宮の子どもたちの心に刻まれるように、機会あるごとに唱和などをすることが必要である。
- 鎌倉会長 : 委員の皆さんから様々にご意見をいただいた。この原案については、概ね了解していただけたと思う。この原案とおりに提言してよろしいか。
(了承)